

### 株主メモ

事業年度 6月1日～翌年5月31日  
定時株主総会 8月  
基準日 5月31日  
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社  
公告の方法 電子公告の方法によります。ただし電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。  
公告掲載URL <http://www.pharmarise.com>  
証券コード 2796(ジャスダック)

ホームページも是非ご覧ください。  
<http://www.pharmarise.com>



(採用サイト)  
<http://recruit.pharmarise.com/>



## 第26期 中間期 株主通信

2011.6.1 ▶ 2011.11.30



代表取締役社長  
大野 利美知



# 高付加価値サービス、地域密着、シナジー展開で新しい成長ステージを目指します。

## Q 第26期中間期業績と通期見通しについてお聞かせください。

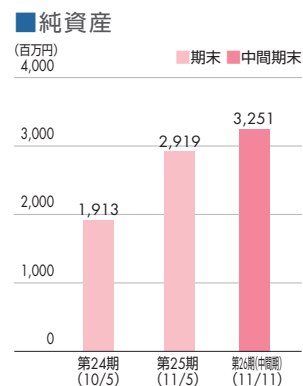
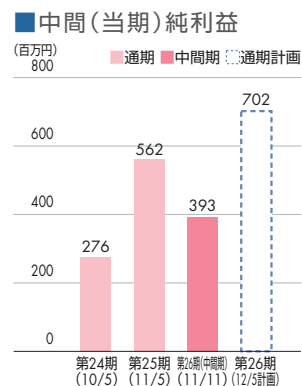
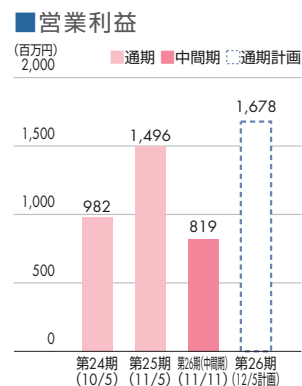
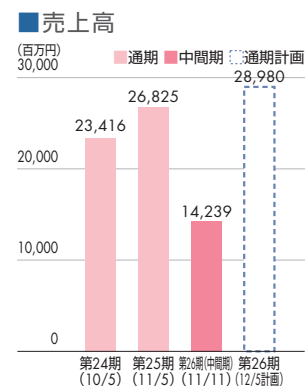
当中間期の連結業績は、売上高が142億39百万円(前年同期比10.0%増)、営業利益が8億19百万円(前年同期比26.5%増)、経常利益が7億29百万円(前年同期比32.6%増)中間純利益が3億93百万円(前年同期比71.0%増)と過去最高の中間期業績を達成することができました。

増収要因は、新規開局(取得)店舗は2店舗に留まったものの、既存店の売上高が前年同期比6.3%と極めて高水準で推移したことがあげられます。具体的には、長期処方増加、新薬の普及、秋口の風邪の流行等により処方せん単価が上昇したためです。

増益要因は、規模拡大のスケールメリットによる仕入・物流の効率化、地域医療とジェネリックの推進による技術料の確保に加え、各事業会社による経営努力の成果です。

通期連結業績は、売上高が289億80百万円(前年同期比8.0%増)、営業利益が16億78百万円(前年同期比12.1%増)、経常利益が15億11百万円(前年同期比12.6%増)、当期純利益が7億2百万円(前年同期比24.8%増)と中間期同様、過去最高となる見通しです。

平成24年4月以降は薬価や調剤報酬の改定が見込まれるものの、好調な既存店売上高に加えて、平成23年9月に子会社化した株式会社テラ・ヘルスプロモーションの連結業績への寄与を見込んでいます。



## Q ファーマライズグループの成長戦略を教えてください。

当社グループでは、新しい成長ステージに向けて「3つのブレイクスルー戦略」に取り組んでいます。

①高付加価値戦略  
医療政策の問題意識を先取りした高付加価値の医療サービスを提供することを重要戦略としています。

具体的には、高齢者人口の増加に対応する「在宅医療・施設調剤の推進」、薬剤費の増加に対応する「安全と効果に基づく後発医薬品(ジェネリック)推進」、慢性疾患の増加に対応する「予防医療の提案」を高付加価値戦略の重要な構成要素と位置付け、鋭意取り組んでいます。

②地域密着戦略  
「地域医療に貢献する」という理念を共有できる地域薬局との連合体を形成して、地域社会への貢献と経営効率の改善を図ることを地域密着戦略としています。

その構成要素は、共有した理念に基づき地域社会(医療)に十分配慮したM&Aを推進すること、地域にドミナント圏を形成しブランド力の強化や運営効率の改善に努めること、地域の有力な医薬品卸企業と提携し協調して地域医療の拡大に邁進することです。

③シナジー戦略  
「地域医療への貢献」に向けて新しいアプローチから調剤薬局事業とのシナジー効果を発現させることを重要な経営課題と認識し、シナジー戦略として推進しています。

その背景として、今後の調剤薬局機能の多様化・高付加価値化が予想される中で、調剤薬局事業の周辺市場(医療モール、医薬品流通、医療関連IT等)にビジネスチャンスがあると考えています。具体的には札幌駅前で運営する医療モール事業のノウハウを生かして医療モール事業を拡大することや、ITを活用したソリューション事業への参入等を重要な活動領域として想定しています。

## Q コーポレートガバナンス(企業統治)はどのようにしていますか？

当社グループでは、各事業会社の独自の強みや地域に根付いた知

名度等を最大限に尊重する方針ですが、そのためには常に最適なグループガバナンスを確立することが重要です。

そのような中、当社では平成22年7月に代表取締役を委員長とするコンプライアンス委員会を設置しました。コンプライアンス委員会では、経営陣を含めたグループ全社においてコンプライアンス体系に対する認識を高め、コーポレートガバナンスや内部統制といった組織の最適な形を継続的に検討することで、不正等の撲滅を図ることを目的としています。

また平成23年10月からは執行役員制度を導入しました。執行役員制度は、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能を分離することで、持株会社体制によるグループガバナンスを一層強化し、役員の責任と権限を明確化することを目的としています。

## Q 株主、投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

いつもファーマライズグループを応援していただきありがとうございます。これからもグループ一丸となって業績の拡大とコーポレートガバナンスの確立に向けて努力を続けます。

当社は、当中間期末を基準日として普通株式1株につき3株の割合とする株式分割を実施いたしました。これは当社株式の流動性を高め、市場での出来高増加を通じて適正な株価が形成される環境を整備することを目的としています。

また、これまでも増して株主、投資家をはじめとしたステークホルダーの方々に対し、透明性の高い情報の開示に努めてまいります。これまでアナリスト・機関投資家向け決算説明会や個人投資家向け会社説明会等のIR活動に力を入れてきましたが、今後はホームページ等の媒体も活用して、さらに情報発信の質・量・スピードを高めてまいります。

配当政策につきましては、3分割後の1株につき1,000円とする予定です。これは前年対比で実質15%の増配になります。また、増配は2期連続になります。今後も業績に見合った成果の配分に努めてまいります。

株主および投資家の皆様におかれましては、引き続きのご支援とご理解を心よりお願い申し上げます。



# 1 ファーマライズの現場力

安心してご利用いただける薬局を目指して



ファーマライズ薬局 飯盛店  
(福島県会津若松市)  
店長 野中 聡美

## Q1 震災後の飯盛店の状況について教えてください。

会津若松市には現在も、警戒区域となった原発立地町の住民が多く避難しています。飯盛店の近隣に避難所があったため、震災直後から当薬局を利用いただいている方が数多くいらっしゃいます。

そのような状況のもと、震災数日後に「被災者は処方せんなしでも医薬品購入可」という指針が示され、当薬局ではその対応に追われました。患者さんが持参したお薬手帳等を基に処方せんなしで調剤を行うのは初めてでしたし、医薬品の手配も大変でしたが、患者さんにとっても感謝されたことが強く印象に残っています。知らない土地で暮らす方々にも安心して利用しただけの医療機関を目指して、これからもがんばってまいります。

## Q2 薬局薬剤師としてどのようなことを心掛けていますか？

セルフメディケーション（自己治療）による地域医療への貢献を目指してOTC販売に力を入れています。日頃の服薬指導を通して、患者さんから相談を受けている調剤薬局の薬剤師だからこそ、自信を持っておすすめできる商品（第一類医薬品、特保、衛生材料等）を積極的に販売しています。

今期からは、メディカルアロマの取り扱いも始めました。処方元医院の看護師長がアロマセラピストの資格を持っており、在宅の患者さんが亡くなった際の清拭にアロマオイルを使用したところ、ご家族にとっても喜ばれたそうです。そのお話を聞いて私もアロマセラピーに興味を持ち、現在勉強中です。

# 2 株式会社メディカルフロントに資本参加

平成23年6月に、医薬品業界に特化し情報システムに関する高い専門性と技術力を持つ株式会社メディカルフロントを持分法適用関連会社としました。同社の技術力は、当社グループの新たな成長エンジンと位置付けています。



<http://www.tera-group.co.jp/company.html>

# 3 株式会社テラ・ヘルスプロモーションを子会社化

平成23年9月30日付で大阪府に6店舗、和歌山県に1店舗を展開する株式会社テラ・ヘルスプロモーションを子会社化しました。これにより当社グループの近畿地区における店舗数は35店舗（連結ベース）となり、大阪府下では16店舗となりました。

# 4 株式分割（1：3）を実施

平成23年12月1日を効力発生日として1：3の株式分割を実施しました。これにより当社株式の市場出来高が増加し、適正な株価形成のための環境整備につながることを期待しています。



ファーマライズ薬局氷見店



くしろ市民薬局

# 5 新規開局

平成23年8月にファーマライズ薬局氷見店（富山県）を新規開局し、11月にはくしろ市民薬局（北海道）を新規取得しました。今後も新規開局を推進してまいります。

■中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

| 科 目         | 第26期中間期<br>(平成23年11月30日現在) | 第25期<br>(平成23年5月31日現在) |
|-------------|----------------------------|------------------------|
| 資産の部        |                            |                        |
| 流動資産        | 8,669                      | 7,684                  |
| 固定資産        | 8,827                      | 7,641                  |
| 有形固定資産      | 3,716                      | 3,744                  |
| 無形固定資産      | 3,100                      | 2,139                  |
| 投資その他の資産    | 2,010                      | 1,757                  |
| 繰延資産        | 28                         | 12                     |
| 資産合計        | 17,526                     | 15,338                 |
| 負債の部        |                            |                        |
| 流動負債        | 8,621                      | 7,581                  |
| 固定負債        | 5,653                      | 4,837                  |
| 負債合計        | 14,274                     | 12,419                 |
| 純資産の部       |                            |                        |
| 株主資本        | 3,104                      | 2,775                  |
| 資本金         | 815                        | 815                    |
| 資本剰余金       | 762                        | 762                    |
| 利益剰余金       | 1,614                      | 1,285                  |
| 自己株式        | △88                        | △88                    |
| その他の包括利益累計額 | 10                         | 15                     |
| 少数株主持分      | 137                        | 128                    |
| 純資産合計       | 3,251                      | 2,919                  |
| 負債及び純資産合計   | 17,526                     | 15,338                 |

■中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

| 科 目              | 第26期中間期<br>(平成23年11月30日まで) | 第25期中間期<br>(平成22年11月30日まで) |
|------------------|----------------------------|----------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,547                      | 1,106                      |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,194                     | △810                       |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 572                        | △7                         |
| 現金及び現金同等物の増加額    | 926                        | 288                        |
| 現金及び現金同等物の期首残高   | 3,289                      | 2,591                      |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 4,215                      | 2,880                      |

■中間連結損益計算書

(単位：百万円)

| 科 目          | 第26期中間期<br>(平成23年6月1日から<br>平成23年11月30日まで) | 第25期中間期<br>(平成22年6月1日から<br>平成22年11月30日まで) |
|--------------|---|---|
| 売上高          | 14,239                                    | 12,946                                    |
| 売上原価         | 12,105                                    | 10,995                                    |
| 売上総利益        | 2,134                                     | 1,950                                     |
| 販売費及び一般管理費   | 1,314                                     | 1,302                                     |
| 営業利益         | 819                                       | 647                                       |
| 営業外収益        | 34  | 22  |
| 営業外費用        | 124                                       | 120                                       |
| 経常利益         | 729                                       | 549                                       |
| 特別利益         | —   | 8   |
| 特別損失         | 24  | 69  |
| 税金等調整前中間純利益  | 705                                       | 488                                       |
| 法人税、住民税及び事業税 | 308                                       | 256                                       |
| 少数株主利益       | 2   | 2   |
| 中間純利益        | 393                                       | 230                                       |

■中間連結貸借対照表■

- 平成23年9月に子会社化した(株)テラ・ヘルスプロモーションの貸借対照表が連結されています。
- 利益剰余金の増加で株主資本も増加しています。

■中間連結損益計算書■

- 増収の主な要因は、既存店売上が好調に推移したことです。
- 増益の主な要因は、仕入・物流の効率化と地域医療・ジェネリック推進による成果です。

■中間連結キャッシュ・フロー計算書■

- 営業活動によるキャッシュ・フローは、好調な事業活動により増加しています。
- 投資活動によるキャッシュ・フローの主な内訳は、(株)テラ・ヘルスプロモーションの株式取得に関する支出です。

■会社概要 (2011年11月30日現在)

|             |                                  |
|-------------|----------------------------------|
| 設 立         | 1984年6月                          |
| 社 名         | ファーマライズホールディングス株式会社              |
| 資 本 金       | 815,545千円                        |
| 本 店 所 在 地   | 東京都中野区中央1-38-1                   |
| 主 な 事 業 内 容 | 持株会社(調剤薬局事業を営むグループ会社を統括する管理運営会社) |
| ホ ー ム ペ ー ジ | http://www.pharmarise.com        |
| 主 要 取 引 銀 行 | 株式会社三菱東京UFJ銀行<br>株式会社みずほ銀行       |
| 連 結 従 業 員 数 | 876名(非常勤含む)                      |

■役員 (2011年11月30日現在)

|         |         |
|---------|---------|
| 代表取締役社長 | 大 野 利美知 |
| 専務取締役   | 村 上 典 夫 |
| 専務取締役   | 秋 山 昌 之 |
| 常務取締役   | 大 野 小夜子 |
| 取 締 役   | 小 高 芳 夫 |
| 取 締 役   | 青 山 智 幸 |
| 監 査 役   | 地 搦 幹 夫 |
| 監 査 役   | 加 部 英 視 |
| 監 査 役   | 佐 藤 勝   |

■株式の状況 (2011年11月30日現在)

|          |          |
|----------|----------|
| 発行可能株式総数 | 104,660株 |
| 発行済株式総数  | 26,165株  |
| 株 主 数    | 702名     |

※2011年12月1日を効力発生日として1:3の株式分割を実施しているため、現在の発行可能株式総数は313,980株、発行済株式総数は78,495株となっています。

■大株主の状況 (2011年11月30日現在)

| 株 主 名         | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|---------------|--------|---------|
| 大野 利美知        | 10,533 | 40.25   |
| ファーマライズ従業員持株会 | 1,229  | 4.69    |
| 中北薬品株式会社      | 1,100  | 4.20    |
| 株式会社バイタルネット   | 1,100  | 4.20    |
| 株式会社ほくやく      | 1,100  | 4.20    |
| 伊藤忠商事株式会社     | 1,000  | 3.82    |
| 大野 小夜子        | 844    | 3.22    |
| 平松 仁          | 520    | 1.98    |
| 大阪証券金融株式会社    | 337    | 1.28    |
| 鈴木 孝雄         | 323    | 1.23    |

■主要仕入先

|          |              |
|----------|--------------|
| 株式会社ほくやく | 株式会社バイタルネット  |
| 中北薬品株式会社 | 株式会社ケーエスケー 他 |

■連結子会社 (2012年1月31日現在)

| 名称                | 住所      | 事業内容 |
|-------------------|---------|------|
| ファーマライズ株式会社       | 東京都中野区  |      |
| 株式会社みなみ薬局         | 静岡県御殿場市 |      |
| 株式会社南魚沼郡調剤センター    | 新潟県南魚沼市 |      |
| 株式会社双葉            | 京都市東山区  |      |
| 株式会社ふじい薬局         | 北海道苫小牧市 | 調剤   |
| 株式会社三和調剤          | 東京都武蔵野市 | 薬局事業 |
| 北海道ファーマライズ株式会社    | 北海道伊達市  |      |
| 株式会社北町薬局          | 東京都練馬区  |      |
| 株式会社テラ・ヘルスプロモーション | 大阪府中央区  |      |